



異所性尿管手術

対象 主に若い雌犬	手術時間 90～150 分	入院 2～4 泊	麻酔 全身麻酔
--------------	------------------	-------------	------------

△ 異所性尿管の手術は専門性が高く、当院では基本的に専門施設をご紹介します。以下は手術内容のご説明です。

■ どんな手術？

本来は膀胱に開口するはずの尿管が、別の場所（尿道や膣など）に開口している先天性の異常を治す手術です。異常な開口部を閉じ、尿管を正常な位置（膀胱三角部）へ移植し直します。手術の前にはCTや尿路造影による精密な評価が不可欠です。

■ この手術が必要なとき

- ・尿管が膀胱以外（尿道・膣など）に開口し、尿失禁が続いている
- ・片側または両側の異所性尿管
- ・CT・内視鏡で確定診断された症例

■ 手術の流れ

- ① CT 検査で尿管の走行・開口部位を確認します（術前に必須）
- ② 全身麻酔をかけ、お腹を切開します
- ③ 異所性尿管の開口部を見つけて閉鎖します
- ④ 尿管を正常な膀胱三角部に新たに吻合（縫い直し）します
- ⑤ 尿管ステントを一時的に留置します（2～4 週）
- ⑥ 腹壁を縫合して終了します

■ 麻酔について

全身麻酔で行います。手術前に血液検査などで全身状態を確認し、麻酔のリスクを評価したうえで実施します。手術中はモニターで呼吸と循環を継続的に管理します。

■ 入院・退院の目安

術後 2～4 泊が目安で、尿管ステントを管理します。2～4 週後にステントを除去します。

■ 術後のケア

- ・術後 3～6 か月かけて尿失禁の改善を評価します
- ・定期的に尿検査を行い、感染や狭窄の有無を確認します
- ・尿道括約筋の機能不全を合併する場合は、薬物療法を併用することがあります

■ 起こりうるリスク・合併症

- ・吻合部の尿管狭窄・閉塞
- ・尿漏れ
- ・尿路感染
- ・一部症例で尿失禁が残存（尿道括約筋の機能不全を合併する場合）

■ よくある質問

Q. 手術すれば尿失禁は治りますか？

A. 多くの症例で改善します。ただし尿道括約筋不全（USMI）を合併している場合は、追加で薬物療法が必要になることがあります。

Q. CT は必要ですか？

A. 尿管の正確な走行を手術前に把握するために必須です。手術の成功率に直結します。なお CT は当院では実施できないため、専門施設で行います。

Q. いつ手術するのがよいですか？

A. 尿失禁による皮膚炎や感染が問題になる前に対応することをお勧めします。

■ なつ動物病院での対応について

なつ動物病院 気になることがあれば、予約外でもお気軽にご来院ください

なつ動物病院 気になることがあれば、予約外でもお気軽にご来院ください